

# 第三国研修事前調査報告書

## マレーシア・アセアン家禽病研究

昭和61年 3 月

国際協力事業団  
研修事業部

113  
87.9  
TAD

研 管
J R
86 - 38



第三国研修事前調査報告書  
マレーシア・アセアン家禽病研究

JICA LIBRARY



1059906721

昭和61年3月

国際協力事業団  
研修事業部

国際協力事業団		
受入 月日	'87. 1. 23	113
登録 No.	15865	87.9
		TAD

## はじめに

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基盤をもつ一定の開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の途上国からの研修員を受入れて、より現地事情に適合した技術、知識の移転を図り、これにより、開発途上国間協力の推進に寄与することを目的としている。

昭和49年度、タイのコラート養蚕研究訓練センターで初めて実施して以来、年々、第三国研修実施協力要請は増え続け、昭和60年度には15ヶ国で、22コースを実施するに至っている。

マレーシアにおける第三国研修は既に金属加工コース、ENG技術コースが実施されているが、本件については家禽病の研究、並びに人材養成を目的とするアセアン家禽病研究訓練センター設立にかかる技術協力要請（プロジェクト方式技術協力+第三国研修）が、1982年の日・アセアンフォーラムの場において、日本国政府に対してなされ、日本国政府は1984年11月、本件に係るコンタクトミッションを派遣する等協議を重ねて来た。1985年2月のブルネイにおけるアセアン農業委員会（COFAF）畜産部会において、本件がマレーシア国をホスト国とするアセアン・プロジェクトとして位置付けされることが再確認された。更に、1985年5月、マレーシア政府より同センターの設立に必要な施設建設、並びに資機材供与に係る無償資金協力の要請がなされた。マレーシア国に対する一般無償資金の供与は、マレーシア国の所得水準が日本国無償資金の供与基準を大幅に上回っているため原則としては困難であるが、アセアン諸国全体に被益するプロジェクトであるとの観点に立ち、無償資金協力の実施が前向きに検討されている。

このような経緯のもと、マレーシアに昭和60年11月27日から同年12月6日迄派遣せしめたが、本報告書はその協議内容、調査結果を取りまとめたものである。

本件の実施についてご協力を賜った外務省、農林水産省、並びに在外公館に深甚な謝意を表わしたい。

昭和61年3月

研修事業部長



# 目 次

はじめに

I 調 査 団	1
1. 調査団派遣の経緯と目的	1
2. 調査団の構成	1
3. 調査団の日程及び訪問先	1
4. 面談者リスト	2
5. プロジェクト組織図	4
II マレーシア国の家畜衛生行政	5
1. 獣医局 Department of Veterinary Services	5
2. 州事務所 State Services	5
3. 地区事務所 District Office	5
4. 獣医研究所 Veterinary Research Institute	5
5. 地域獣医診断所 Regional Veterinary Diagnostic Laboratory	6
6. 家畜衛生機構図	7
III アセアン家禽病研究訓練センターにおける第三国研修について	8
1. 研修計画	8
2. セミナー	8
3. 基礎診断技術コース	9
4. 特定診断技術コース	10
5. 講師	11
6. 講師宿舎	11
7. 研修員募集の一考察	12
8. 研修員の宿舎	12
IV 付 表	13
付表-1. マレーシア国家畜病研究所で実施されているコース・リスト	13
付表-2. 農業省組織図	15
付表-3. 家畜研究所組織図	16
付表-4. 第三国研修施設見取図	17
付表-5. 事前打合せ調査団レポート	18





# I 調査団

## 1. 調査団派遣の経緯と目的

マレーシア国、イポー市において実施が検討されているアセアン家禽病研究訓練センター計画はプロジェクト方式技術協力、無償資金協力、第三国研修計画等をコンバインさせた協力案件である。

第三国研修計画に関する事前調査団は、本計画のコンタクト調査団（1984年11月）及びプロジェクト方式技術協力・無償資金協力合同事前調査団（1985年7月）の報告をふまえ、日本、アセアンフォーラムの要請に基づき協議を礎にして、1987年度より開始予定の研修につき計画運営等をマレーシア国関係者と大枠を協議し、その結果を同時期に派遣される無償資金協力基本設計調査団の基本設計に反映させ、第三国研修計画の実施を円滑に推進させることに寄与する事を目的とする。

## 2. 調査団の構成

研修運営	永友政敏	国際協力事業団研修事業部研修第一課
研修計画	杉浦勝明	農林水産省畜産局衛生課

## 3. 調査日程（11月27日～12月6日）と訪問先

### 調査日程

11・27（水）	東京 → マレーシア（到着16：15PM）
28（木）	午前（9：30～12：00）日本大使館石島一等書記官、JICA中村所長、勝屋、袋地長期調査員と打合せ 午後（2：00～6：00）クアラルンプール市 → イポー市、車にて移動 7：00～10：00イポー獣医学研究所主催のレセプション参加
29（金）	午前（9：00～12：00）イポー獣医学研究所々長 Dr A RAHMAN. プロジェクトリーダー予定者 Dr Gan Chee Hiong 計画運営につき協議 午後（2：00～18：00）無償資金協力基本設計チームと合流 上記2名と打合せ 長期調査員合流
30（土）	午前（9：00～17：00）イポー獣医学研究所にて Dr Gan Chee Hiong と協議 午後（21：00～23：00）無償資金協力基本設計チーム長期調査員、第三国研修調査団合同打合せ
1（日）	午前（8：00～12：00）獣医学研究所現地調査 午後（15：00～17：00）調査団員内打合せ
2（月）	午前（9：00～12：00）獣医学研究所にて合同打合せ （新プロジェクトのスタッフ予定者との打合せ） 午後（13：00～17：00）イポー市 → クアラルンプール移動（車）

3 (火)	午前 (10:00~12:00) 中村所長へ中間報告 午後 (14:00~17:00) 農業省獣医局にて合同協議 Dato Dr KARDIN 局次長外7名の局職員参加
4 (水)	午前 (9:00~12:00) 農業省獣医局にて合同協議 午後 (14:30~17:00) EPU (Principal Asst. Director. Mr Md Aminuddin Hashim に報告, 説明
5 (木)	午前 (9:00~14:00) 大使館, J I C A 事務所報告 午後 帰国準備 23:30 マレーシア発
6 (金)	午前 6:30 成田着

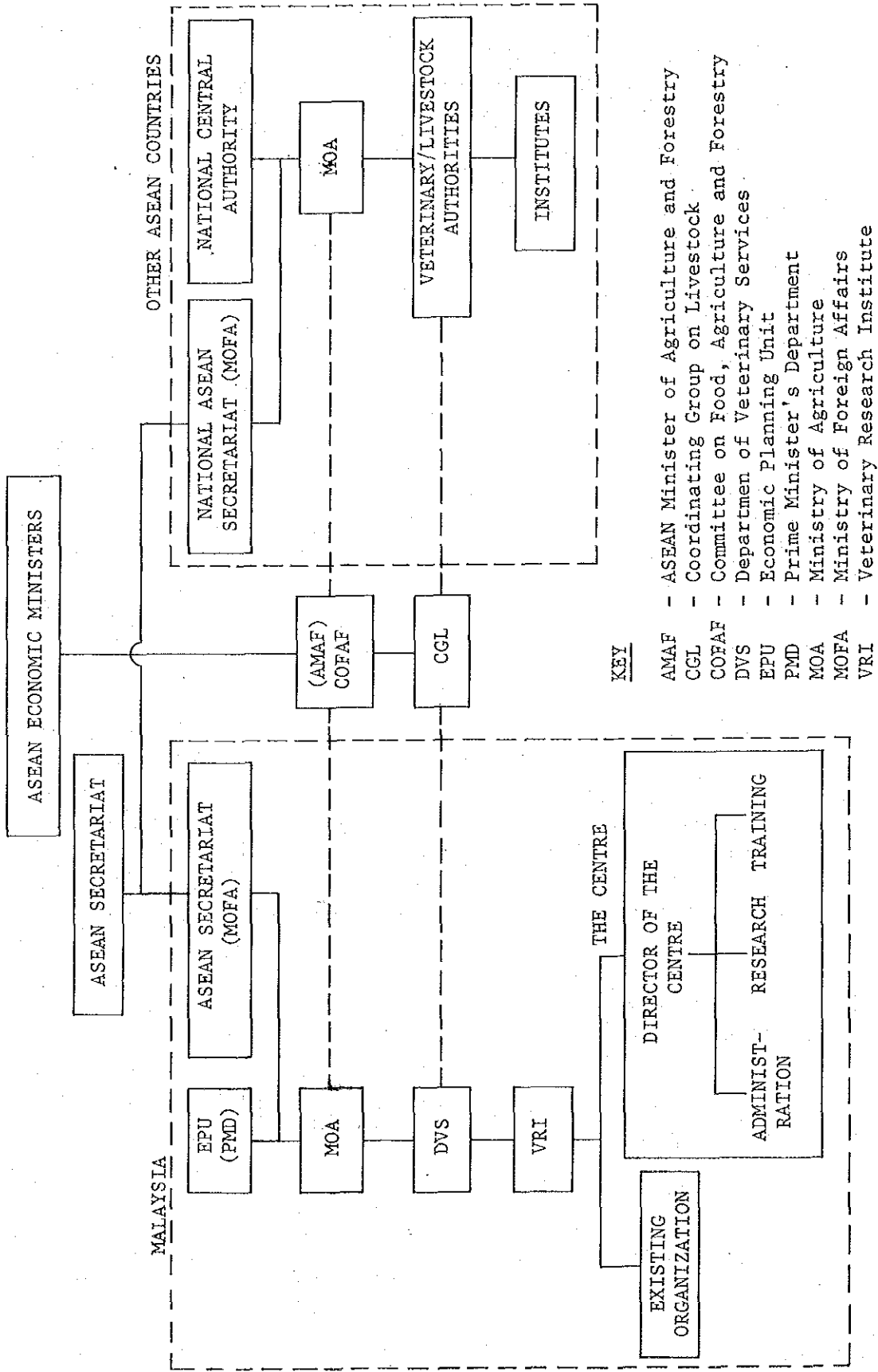
#### 4. マレーシア関係者面談リスト

a) Mr. Ab Ghaffar A. Tambi	Assistant Secretary	Ministry of Agriculture
b) Data Dr Kardin Bin Shukor	Assistant Director General	Dept. of Veterinary Services Ministry of Agriculture
c) Mr. Anwar Hassan	Director of Planning	Dept. of Veterinary Services Ministry of Agriculture
d) Dr. Heng Nqarkowe	Senior Veterinary Officer	Dept. of Veterinary Services Ministry of Agriculture
e) Mr. Yahya Muhamad	Research Officer	Dept. of Veterinary Officer Ministry of Agriculture
f) Dr. Abd Rahaman	Director	Veterinary Research Institute Ipoh
g) Dr. Gan Chee Hiong	Veterinary Officer	Regional Veterinary Diagnostic Laboratory Penang
h) Dr. Nor Aidah Bt. Abdul Rahin	Head Bacteriology Section	VRI
i) Dr. P. Loganathan	Head Pathology Section	VRI
j) Mr. Lim Kean Teik	Head Virology Section	VRI

k) Mr. Christopher Rajamamoakm    Head  
Parasitology Section                    VRI

l) Mr. Lo Honn Seang                    Head  
Viral Vaccine Section                    VRI

5. プロジェクト関係組織図 RELATIONSHIP AMONG AGENCIES CONCERNED FOR IMPLEMENTING THE PROJECT OF THE ASEAN POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE



## II マレーシア国における家畜衛生

家畜衛生行政は農業省獣医局の管轄であり、その機構は図のとおりである。

### 1. 獣医局 Department of Veterinary Services (DVS)

獣医局は畜産の振興を図ることを主目的とし、次のような方策を行なっている。

①家畜の死亡率の減少と、生産性向上のための疾病予防とその防御 ②家畜に重要な特定疾病の撲滅 ③交配及び人工授精による家畜の増産 ④畜産業とマネジメントの近代化 ⑤職員及び農家の教育訓練 ⑥研究及び普及活動 ⑦畜産市場の拡大 ⑧畜産物と飼料の品質向上等

家畜衛生業務は局長スタッフとして、衛生担当の局長補佐 Assistant Director General が事務を掌握している。

衛生担当の事務は ①家畜疾病の予防・防疫・撲滅 ②動物検疫 ③獣医公衆衛生 ④屠殺場 ⑤家畜衛生の普及・研究 である。

### 2. 州事務所 State Services

州事務所には州政府同意のもとに獣医局長によって任命された獣医官 (Director of State DVS) が1名おり、連邦政府と同じ担当が置かれている。家畜衛生の普及活動と家畜生産及び畜産振興策の州内の事務を執る。

一例として、ひな白痢撲滅計画及びワクチネーション事業は、獣医局の指示のもとに地域獣医診断所 (Regional Veterinary Diagnostic Laboratory) 地区事務所等と連携をとるようになっている。

その他疾病発生及び食肉衛生 (鳥処理場を含む) に関する規則の適用を業ならう。

現在13名の獣医官 (Director of State DVS) が置かれている。

### 3. 地区事務所 District Office ・小地区事務所 Sub District Office

上部機関の指示に基づいて、疾病予防活動等を推進すると共に病性鑑定材料の採取及びその送付等を業らう。

### 4. 獣医研究所 Veterinary Research Institute (VRI)

VRIの業務は以下の通りである。

- ① 経済的に大損害となる家畜疾病の衛生に関する研究
- ② 多発伝染病予防のワクチンの製造
- ③ グルセラ病・サルモネラ感染症・出血性敗血症・及び他の疾病に関するリファレンスセンターとしての活動
- ④ 診断サービスの実施

- ⑤ 診断センター・農家他の政府機関への疾病に関する相談や確定診断
- ⑥ 疾病治療・防疫・撲滅に関するアドバイスと監視
- ⑦ 実験室補助員及び他の職員の研修

尚、VRIで製造されたワクチン類は、州事務所を經由して、地区事務所で保管・使用され、また農家でも購入できる。

## 5. 地域獣医診断所

Regional Veterinary Diagnostic Laboratory (RVDL)

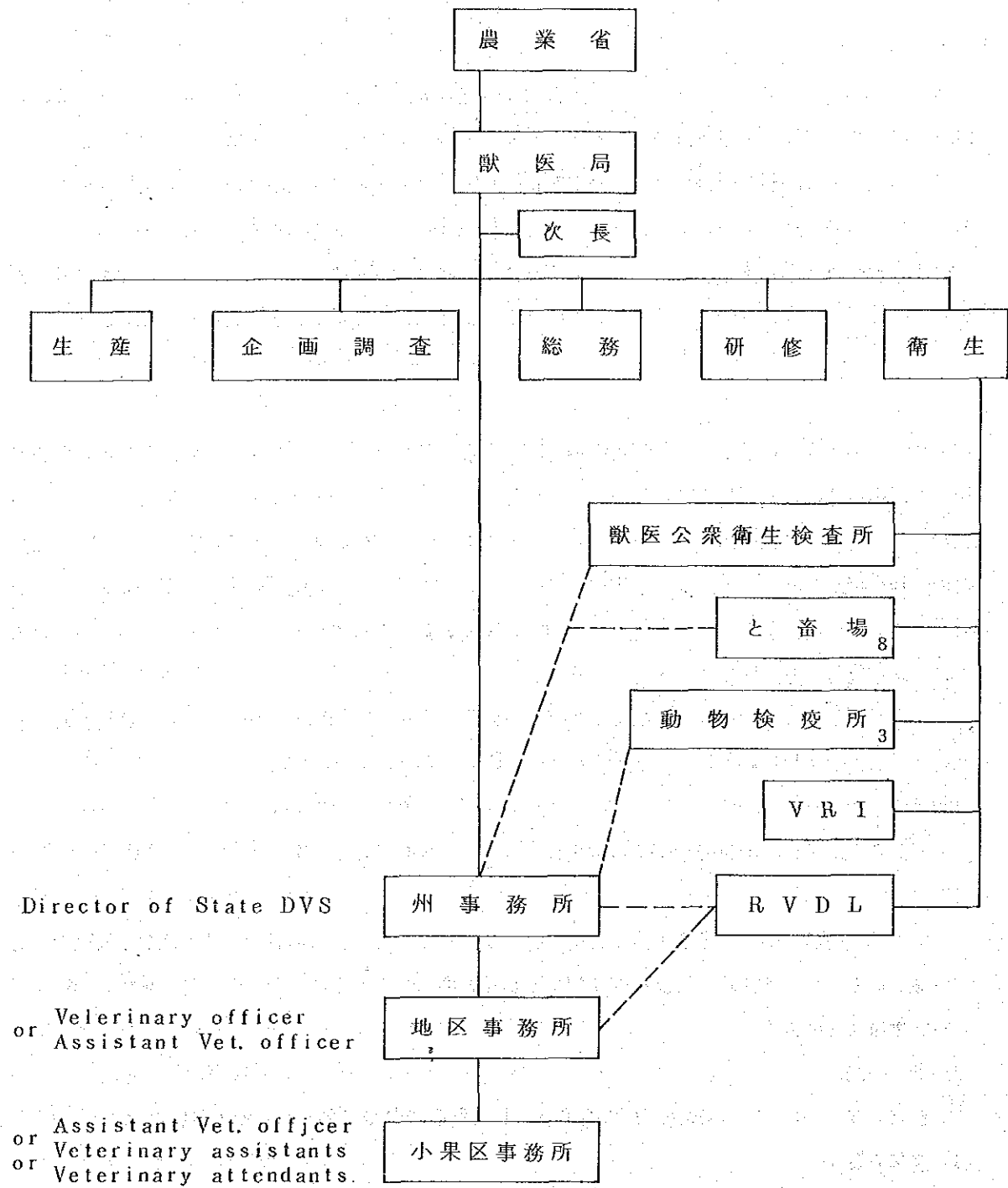
疾病診断・野外調査・農家指導等を主な業務とし、マレーシア半島には7ヶ所ある。(VRI内のRegional Laboratoryを含む)

1ヶ所当たり、獣医師4名を含む約30名で構成されている。

Bukit Tenya, VRI, Petaling Jaya の診断所にはウイルス・細菌・病理・寄生中の4部門がある。また毒物と飼料分析部門があるのはVRIとPetaling Jayaだけである。

鑑定材料に関しては、農家・地区事務所から持ちこまれることが多い。また診断結果は診断表を4部作成し、Head OfficeであるVRIと州事務所・地区事務所に各々1枚送付して、より効果的な対策を講じている。

6. マレーシアの家畜衛生機構



### Ⅲ アセアン家禽病研究訓練センターにおける第三国研修について

#### 1. 研修計画

昭和60年7月に派遣されたプロジェクト方式技術協力事前調査団とマレーシア側との協議により、訓練部門については①上級獣医師，科学者を対象とするセミナー，②初級獣医師，科学者及び上級技術者を対象とする基礎診断技術コース及び③初級獣医師，科学者及び上級技術者を対象とする特定診断技術コースの3種のコースのうち2コースを毎年開催することが確認されていた。

今回の調査では上記各コースのフレームワーク，すなわち，タイトル，目的，期間，参加人数，参加資格，カリキュラムについてマレーシア側と協議を行い，その結果，次のことが確認された。

#### 2. セミナー

セミナーは，いろいろな分野の専門家が集まる会議と異なり，アセアン諸国の同一分野の専門家が集って討議形式により意見交換を行い最終的に各国にとって有用な考えを導き出す場としたいというのがマレーシア側の基本的な考え方であった。セミナーの実施形態については，各セミナー毎に家禽病の各種分野から特定のトピックを選定して，同トピックについて各国からカンントリーレポートを発表するとともに討議を行った上で最後に各国への技術的勧告も含めたセミナーの評価を行う形となる。また，関連機関，施設への視察旅行も行う。

以上のことをマレーシア側との間で確認した上で，セミナーの具体的なフレームワークを次のとおりとすることが了解された。

##### (1) タイトル

「家きん病及びその防疫に関するASEANセミナー」

##### (2) 目的

アセアン諸国における家きん病の実情（発生状況だけでなく，診断状況，防疫状況等も含む）を認識するとともに予防及び防疫技術に関する知識を増加することにより，アセアン地域における家畜衛生事情を改善する。

##### (3) 期間

約14日間。（セミナーの実施形態から考えて14日程度が適当であろうと考えられた。）

##### (4) 参加人数

アセアン諸国（開催国のマレーシアを除く。）から10名及びマレーシアから15名の計25名。（すでにアセアン諸国の調査を行った長期調査員から各国とも2名程度派遣する考えであることの報告があった。また，マレーシア側から国内から15名程度参加させたいとする希望があった。）

##### (5) 参加資格

家畜衛生行政に従事し，関係分野において一定の経験年数（年数はセミナーの性格に応じてその都度決定する）を有する獣医官又は科学者。



## (6) カリキュラム

### ① 日程

- 1日目 : イポー到着
- 2日目 : 開講式及びオリエンテーション
- 3日目 : カントリーレポートの発表
- 約3日間 : 特定のトピックに関する報告及び討議
- 約3日間 : 視察旅行
- 最後の3日間 : セミナーの評価, 閉講式及びイポー出発

### ② トピックの例

- a. 家きん病の疫学 (獣医統計も含む。)
- b. 家きん病の防疫及び防疫計画
- c. 最新診断技術 (ELISAテスト, モノクローナル抗体技術等)
- d. 獣医経済
- e. 研究計画の立案
- f. その他

## 3. 基礎診断技術コース

基礎診断技術コースは、家きん病の基礎的な診断技術を習得することを目的としている。実施形態は実習が中心となり、一部基本的診断技術及び主な家きん病についての講義も行われるほか、視察旅行も行われる。また、参加人数を約7名とすれば、VRIのスタッフが約3か月間訓練に当たることが可能であることが確認された。本コースのフレームワークは次のとおりとすることでマレーシア側との間で了解された。

### (1) タイトル

「ASEAN家きん病基礎診断技術コース」

### (2) 目的

家きん病の基礎診断技術の能力を向上させる。

### (3) 期間

最高3か月までの間。

### (4) 参加人数

アセアン諸国 (開催国のマレーシアを除く。) から約5名及びマレーシアから約2名の計約7名。

### (5) 参加資格

実験室内診断サービスに従事する獣医官, 科学者又は上級テクニシャン (経験年数は問わない)

### (6) カリキュラム

最初の20日間: イポー到着, 開講式, オリエンテーション, 実験室設備の取扱技術, 採血技術, 肉

眼病理学，採材技術及び材料の送付方法。

約20日間： 主な細菌病の基礎診断技術に関する講義及び実習。

約20日間： 主なウィルス病の基礎診断技術に関する講義及び実習。

約15日間： 主な寄生虫病の基礎診断技術に関する講義及び実習。

最終の15日間： 視察旅行，コースの評価，閉講式及びイポー出発。

(なお，組織病理学の基本的技術については，本コースよりも特定診断技術コースで取り扱うことがふさわしいことが了解された。)

#### 4. 特定診断技術コース

特定診断技術コースは，従来から確立されている診断技術だけでなく，最新の診断技術及びワンチップの製造過程における各種技術の中から特定の技術を取り上げ，同技術を習得することを目的として行われる。実施形態は，基礎診断技術コースと同様，実習が中心となるが，講義も行われるほか，時間が許せば視察旅行も行われる。

以上のことを確認した上で，本コースのフレームワークは次のとおりとすることでマレーシア側との間で了解された。

##### (1) タイトル

「ASEAN家きん病特定診断及び研究技術コース」

##### (2) 目的

家きん病の特定診断及び研究技術の能力を向上させる。

##### (3) 期間

約14日間。(参加対象としてすでに一定の期間関係分野における経験を有する者を予定していることから，14日間程度で十分吸収できるであろうと考えられる。)

##### (4) 参加人数

アセアン諸国(開催国のマレーシアを除く。)から約5名及びマレーシアから約2名の計約7名。

##### (5) 参加資格

実験室内診断サービスに従事する獣医官，科学者又は上級テクニシャンであり，特定の分野において一定期間の経験を有する者(分野及び期間は，コースの性格によってその都度決定する)

##### (6) カリキュラム

###### ① 日程の例

1日目 : イポー到着

2日目 : 開会式及びオリエンテーション

約7日間 : 特定技術についての講義及び実習

最後の2～3日間 : 視察旅行，コースの評価及びイポー出発

###### ② 特定技術の例

- a. 病理学的技術（ウイルス病，細菌病及び寄生虫病の肉眼及び組織病理学の技術等）
- b. ウィルス学的技術（ウィルス分離技術，分離ウィルスの同定技術等）
- c. 細菌学的技術（細菌培養技術，マイコプラズマの診断技術，細菌の同定技術等）
- d. 血清学的技術（蛍光抗体法，血球凝集抑制反応，ゲル内沈降反応，血清中和試験，補体結合反応，凝集反応，ELISA試験等。これらのうち1技術又は2技術以上を組み合わせて1コースで取り上げる。）
- e. 寄生虫学的技術（寄生虫病の血液及び糞便検査技術等）
- f. ワクチン製造に関する特定技術（凍結乾燥技術）

## 5. 講 師

第三国研修に必要な講師の手配については，マレーシアは開催国として責任と自覚を感じていることから，できる限り講師を手配する考えである旨前置した上で次の発言がVRI側からあった。

実際，基礎診断技術コースに必要な講師については全て，セミナー及び特定診断技術コースについても大部分VRIの職員で対応可能であると考えている。しかしながら，セミナー及び特定診断技術コースで想定される一部の分野については，VRIは充分対応可能な専門家を有しない。たとえば，病理学の特定分野（特に，組織病理学的技術），ウィルス学における組織培養技術，蛍光抗体技術等については，VRI以外から専門家を講師として補給する必要がある。VRIで対応困難な分野については，マレーシア国内の他の機関の専門家を外部講師として手配するほか，日本から派遣される長期専門家が技術的助言を行うとともに，短期専門家が講師として派遣されることを希望する。また，ASEAN諸国からも専門家を講師として招待することも考えている。

獣医局の推定によると，マレーシア国内で第三国研修の講師となりうる推定専門家数は次のとおりである。

① VRI	.....	約6名
② マレーシア農科大学 (UPM)	.....	約10名
③ 地域獣医診断センター (RVOL)	.....	約4名
④ 家きん殖産センター (PMC)	.....	約3名
⑤ マレーシア農業研究開発研究所 (MARDI)	.....	約4名
計		約27名 (25~30) 名

## 6. 講師宿舍

1985年度派遣のアセアン家禽病研究訓練センター計画コンタクト調査団との協議においてマレーシア側は5ユニットの宿舍の建設を申請した。無償BDチームから提案された数(ユニット)，場所等につきマレーシア側は次の様な説明を行った。

マレーシアは，英国の影響を歴史的に受けており，講師と生徒は教室における関係を教室外に持ち

込むことはない。

5ユニットの申請を行ったが、日本側の事情でその数が減るのは致し方ない。但し2ユニットは少なすぎる。

#### 7. 研修員募集の一考察

アセアン諸国間においては分野レベル別に各国の代表と会合をもっており、獣医関係においても年2回（獣医局長レベル）開催している。その折々に第三国研究参加を要請して行くし、その評価（実施後）、トピックス（実施前）についても十分にアセアン会議を活用したい旨マレーシア関係者より説明を受けた。

#### 8. 研修員の宿舎

獣医学研究所（VR I イポー）は、農系高等学校卒16名（女子14名、男子2名）に1.5年間の研修を行い、卒業後各地の機関に配属を行う研修員は、国の公務員の身分で寮生活と研修を受けている。

同獣医学研究所は、職員の訓練、外国人を含む研究者のセミナー等も実施しており今後の第三国研修運営についても問題はないものと思料される。

## Ⅳ 付 表

### 1. マレーシア家畜病研究所で実施されているコース・リスト

コース	人数	期間	要請機関
1. 低温装置及視聴覚	1	1週間	マレーシア農大, セルダン
2. 獣医助手補習コース	8	4日間	パラク州獣医部, 獣医科
3. 微生物学	2	8週間	マレーシア科学大学
4. 微生物学	2	8週間	マレーシア国立大学
5. ワクチン生産	1	8週間	(ダブル博士) ネパール
6. 細菌学	3	6週間	マレーシア・マラエ科大学
7. 全部門	4	5日間	ネパール
8. 基礎微生物学	1	4週間	
9. 種々の研究所技術	20	6-8週間	マレーシア農業大学, セルダン

### GT 2 のスポンサーによるコース

1. コンピューター基礎	6	4日間	家畜病診断研究所, マレーシア
2. 縮小複写コース	6	4日間	同上
3. 臨床化学	5	4日間	同上
4. 講師養成コース	27	1週間	同上

### 他の訓練コース

- (1) 地区スタッフ用家禽疾病防除計画管理
- (2) 家禽生産における実技演指導者  
(家禽疾病に対する伝染病研究)
- (3) アヒルの疾病
- (4) 他の種類の家禽疾病及び管理

(注) 上記のコースは:

- a) 訓練生のタイプ = 獣医助手から成る地区職員
- b) 期間 = 1週間
- c) 度数 = 年2回

- (5) (現在の) 獣医助手訓練  
年に40名, 2週間, 年1回
- (6) 家禽疾病防除のための個人獣医コース

(開業)

1週間、年に2回

因みに下記の人数は、これまでD. V. S. から訓練を受けた人数(獣医助手及び農民)である。

1981-500名

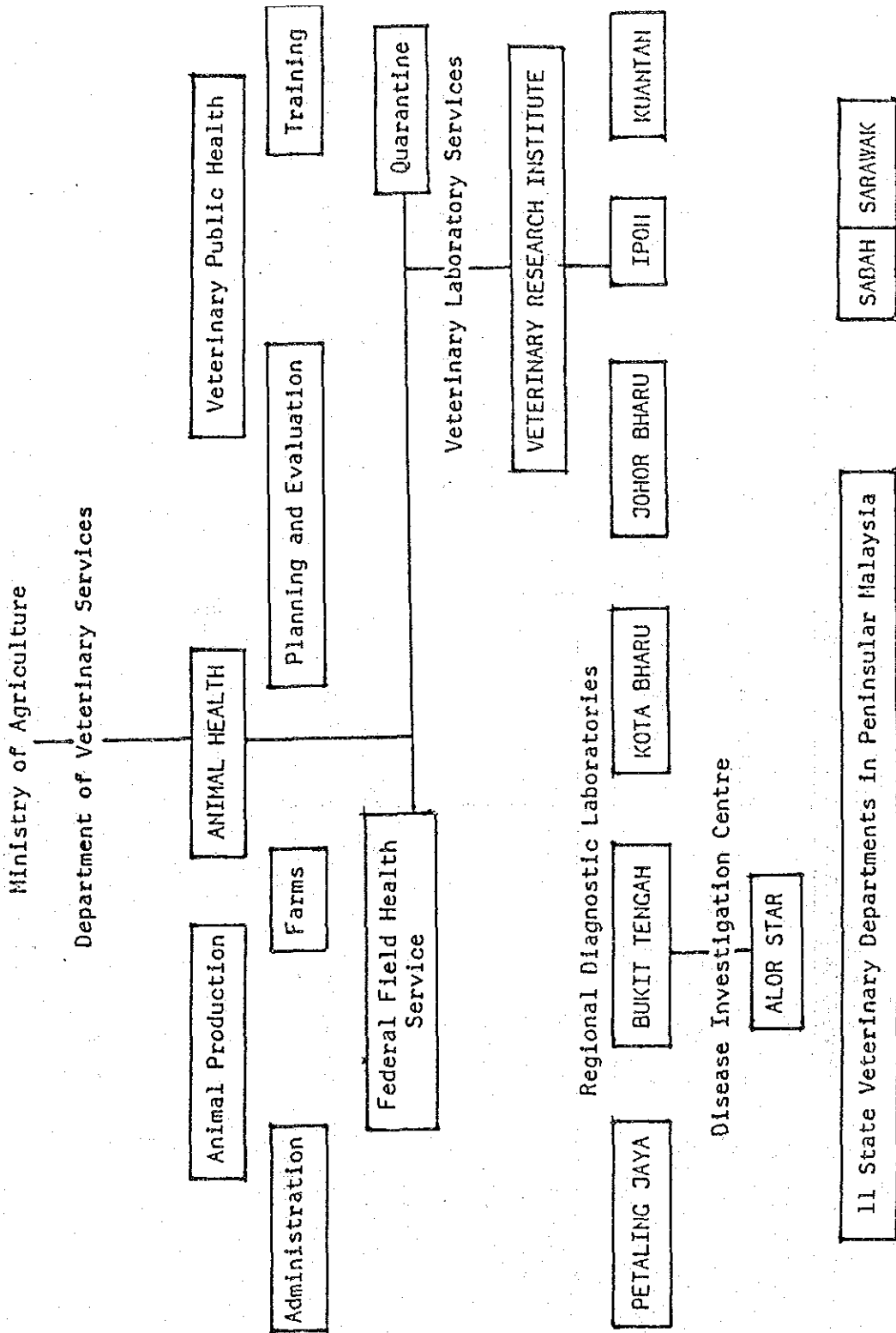
1982-450名

1983-480名

1984-450名

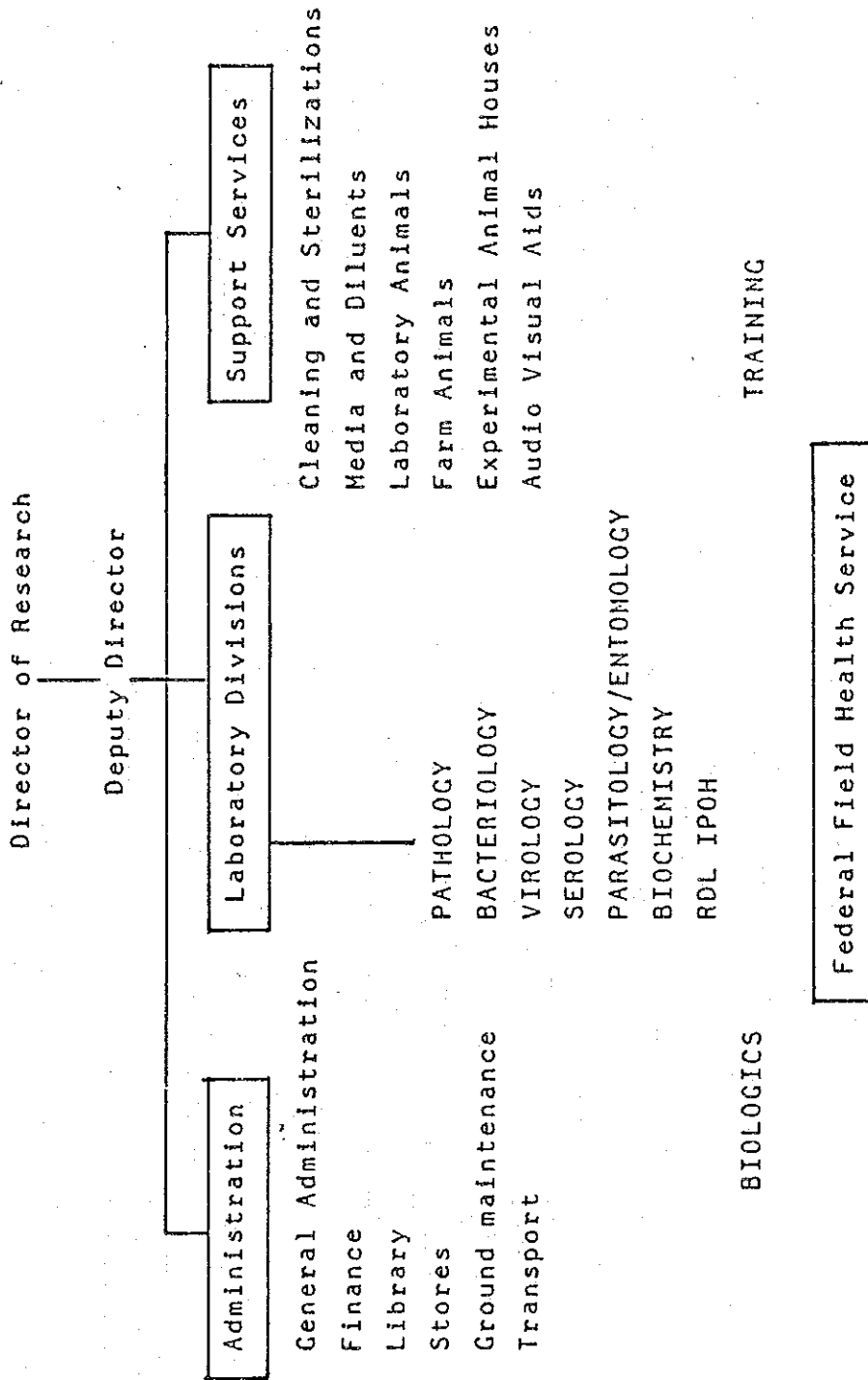
1985-480名

付表-2 農業省組織図



附表一 3 家畜研究所組織圖

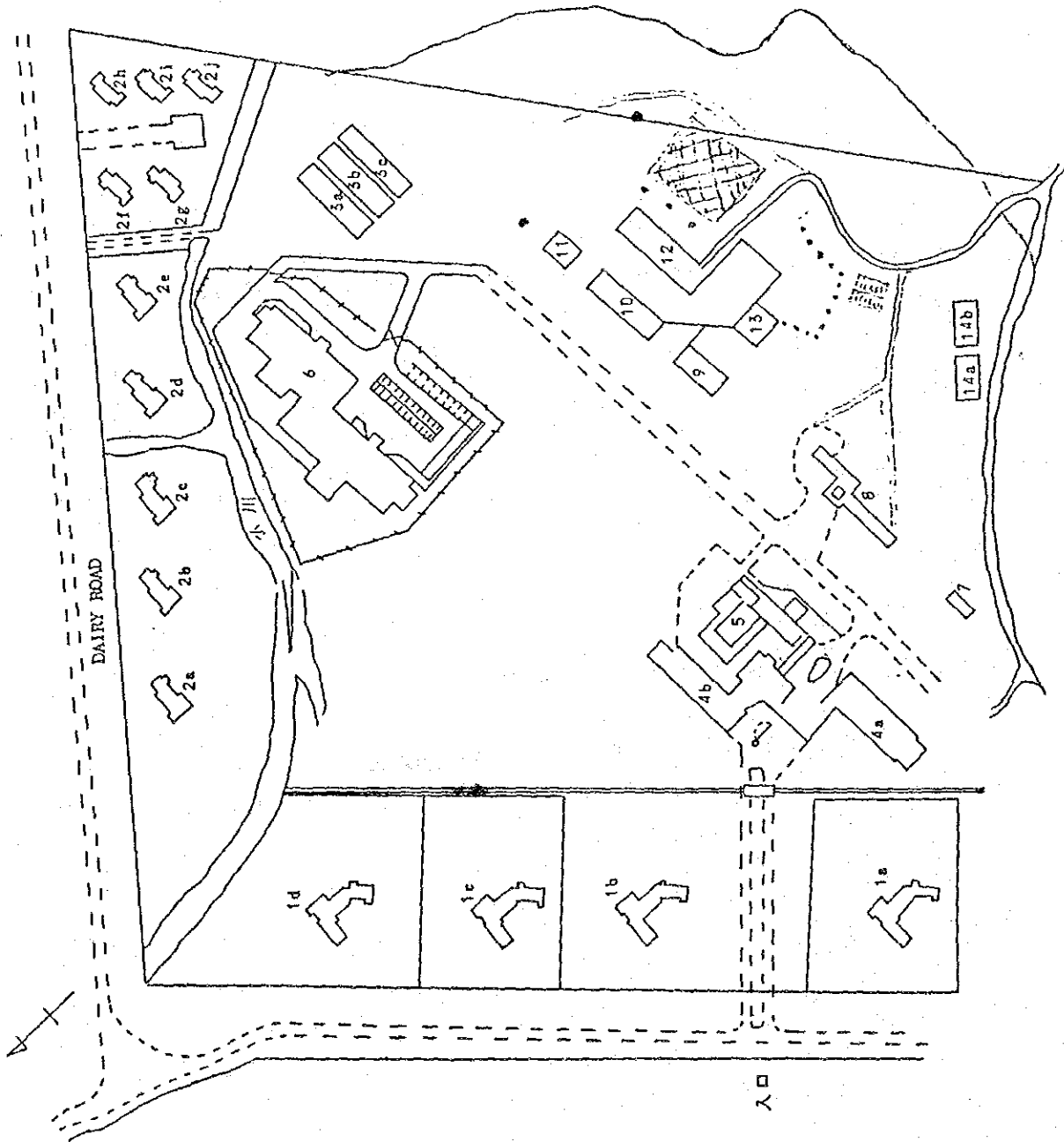
Organization of the Veterinary Research Institute





付表-4 第三園研修施設見取図

VR I の建物配置図



1. 場長等幹部宿舎 (4棟)
2. 技術者スタッフ宿舎 (10棟)
3. ワーカー宿舎
4. 本館
5. 病理学棟
6. (ワグチン製造棟予定地)
7. 鶏舎
8. 女性用宿舎 (2人部屋×6, 台所・食堂)
9. 小動物舎
10. 牛舎及び豚舎
11. 鶏舎
12. 実験用動物舎
13. 山羊舎
14. 隔離畜舎

Preliminary Survey Report  
on  
The Third-Country Training Programme  
in  
The Project of the ASEAN Poultry Disease and Research Centre  
in  
Malaysia

December 5, 1985

The Preliminary Survey Team  
for  
The Third-Country Training Programme

The Government of Japan has dispatched the Preliminary Survey Team ( hereinafter referred to as " the Team " ) to Malaysia from November 27, 1985, to December 6, 1985, for the Third-Country Training Programme which is scheduled to be implemented at the ASEAN Poultry Disease and Research Centre in Malaysia ( hereinafter referred to as " the Centre " ).

The Team has carried out preliminary survey winning the warm and heartfelt cooperation from the authorities concerned of the Government of Malaysia, long-term experts and other related people, held a series of discussions and exchanged views with them. And it submits a report today.

#### Members

- |                        |                        |  |
|------------------------|------------------------|--|
| 1) Training Management | Mr. Masatoshi NAGATOMO | First Training Section,<br>Department of Training<br>Affairs, JICA.  |
| 2) Training Planning   | Dr. Katsuaki SUGIURA   | Animal Health Division,<br>Bureau of Livestock Industry,<br>Ministry of Agriculture Forestry<br>and Fisheries. |

## I Objectives

The Team aims to contribute to smooth implementation of the Grant Aid Basic Design Survey and the Third-Country Training Programme by conducting Preliminary survey on the Third-Country Training Programme, its administration and its management as well as discussing them with the authorities concerned, taking into account the results which were brought about by the Contact Survey Team ( dispatched in November, 1984 ) and the Joint Preliminary Survey Team for Technical Cooperation and Grant Aid ( dispatched in July, 1985 ) which were dispatched for the Project of the ASEAN Poultry Disease Research and Training Centre which has been worked out at the request of the Japan-ASEAN Forum.

## II List of Attendants

### 1 The Malaysian Side

- |                                 |                               |   |
|---------------------------------|-------------------------------|---|
| a) Dr. ABD RAHMAN               | Director                      | Veterinary Research Institute<br>Ipoh               |
| b) Dr. GAN CHEE HIONG           | Veterinary<br>Officer         | Regional Veterinary Diagnostic<br>Laboratory Penang |
| c) Dr. HOR AIDAH BT ABDUL RAHIM | Head<br>Bacteriology Section  | VRI   |
| d) Dr. P. LOGANATHAN            | Head<br>Pathology Section     | VRI   |
| e) Mr. LIM KEAN TEIK            | Head<br>Virology Section      | VRI   |
| f) Mr. CHRISTOPHER RAJAMAMOAKM  | Head<br>Parasitology Section  | VRI   |
| g) Mr. LO HONN SEANG            | Head<br>Viral Vaccine Section | VRI   |

### 2 The JICA Team

#### 1) The Third-Country Training Programme Team

- |                        |                        |   |
|------------------------|------------------------|---|
| a) Training Management | Mr. MASATOSHI NAGATOMO | First Training Section<br>Department of Training<br>Affairs JICA  |
| b) Training Planning   | Dr. KATSUAKI SUGIURA   | Animal Health Division,<br>Bureau of Livestock Indus-<br>try, Ministry of Agriculture,<br>Forestry and Fisheries. |

#### 2) Japanese Expert

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| a) Dr. SHIGEMI SHOYA     | Toxicopathology Section<br>National Institute of<br>Animal Health,<br>Ministry of Agriculture,<br>Forestry and Fisheries<br>Narita Branch |
| b) Dr. TOSHIRO FUKUROCHI | Animal Quarantine Services<br>Ministry of Agriculture,<br>Forestry and Fisheries  |

3) The Basic Design Study Team

- a) Team Leader Dr. Takayasu TAKIZAWA Director, First Research Division,  
National Institute of Animal Health,  
Ministry of Agriculture, Forestry  
and Fisheries
- b) Grant Aid Mr. Mitsuyuki YAMAMOTO Grant Aid Department,  
Policy Economic Cooperation Bureau,  
Ministry of Foreign Affairs
- c) Project Mr. Yoshihide TERANISHI First Basic Design Study Division,  
Coordinator Grant Aid Planning and Survey,  
Department, Japan International  
Cooperation Agency (JICA)
- d) Architectural Mr. Yasuhiro MIYOSHI GKK Consultants, Inc.  
Planning
- e) Architectural Mr. Masahiro IKAWA GKK Consultants, Inc.  
Design
- f) Facilities Mr. Yoshihisa KATO GKK Consultants, Inc.  
Planning
- g) Research and Dr. Tatsuro KIKUNO GKK Consultants, Inc.  
Equipment  
Planning

III Itinerary (November 27 -- December 5, 1985)

November 1985

27th	Wed	4.20 P.M.	...	Arrive K.L. (JL 721)
28th	Thurs	Morning	...	Visit to JICA K.L. Office (Discussion with Drs. Shoya and Fukurochi)
		Afternoon	...	Proceed to Ipoh
29th	Fri	9.30 A.M.	...	Discussion at VRI, Ipoh
		3.00 P.M.	...	--- do ---
30th	Sat	9.00 A.M.	...	--- do ---
		2.00 P.M.	...	--- do ---

December 1985

1st	Sun		...	Survey of the Project site, Ipoh
2nd	Mon	10.00 A.M.	...	Discussion at VRI, Ipoh
		Afternoon	...	Return to K.L.
3rd	Tue	2.00 P.M.	...	Discussion at Dept of Vet. Services, K.L.
4th	Wed		...	--- do ---
			...	Discussion at E.P.U.
5th	Thurs		...	Report to Embassy of Japan and JICA K.L. Office
		11.20 P.M.	...	Leave K.L. (JL722)

IV TENTATIVE FRAMEWORK OF THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME AT THE ASEAN  
POULTRY DISEASE RESEARCH AND TRAINING CENTRE

It was suggested in the preliminary survey conducted from 16th July to 26th July, 1985 that training activities for ASEAN countries are to be carried out under the following courses:

- a) Seminars for senior veterinarians and scientists.
- b) Courses in basic diagnostic techniques for junior veterinarians, scientists and senior technical officers.
- c) Courses in specialized diagnostic techniques for junior veterinarians, scientists and senior technical officers.

( Two courses are to be held annually)

Since this Programme basically is to be implemented upon the conclusion of the Record of Discussions in the same way as Project-type technical cooperation programme, a team shall be dispatched for the conclusion of the Record of Discussions later. However, the tentative framework of the Programme were worked out as follows:

1. Objectives of the Third-Country Training Programme.

Poultry industry has recently attained a remarkable development in the ASEAN countries. Actually, However, poultry diseases have become a serious impeding factor for the development of the industry. The Third-Country Training Programme which is to be implemented at the Centre aims to contribute to a sound development of poultry industry in the ASEAN Countries by providing training to the participants from the ASEAN countries at the Centre.

The course shall be conducted for veterinarians, scientists and other technical officers who have been engaged in diagnostic and research activities as well as in control of poultry diseases in the ASEAN countries for the purpose of improving their capability in various fields of poultry diseases (epidemiology, diagnosis, research, control, etc.)

2. Training Site

The Veterinary Research Institute,  
Ipoh City, State of Perak, Malaysia

3. Receiving Organization

Department of Veterinary Services, Ministry of Agriculture, the Government of Malaysia in collaboration with the Coordinating Group on Livestock of the Asean-COFAP.

The EPU Economic Planning Unit of the Government of Malaysia shall act as the coordinating organization.

4. Work responsibilities and share of expenses involved in the Third-Country Training Programme.

The work responsibilities and share of expenses shall be as are shown below.



1) ROLES OF THE HOST COUNTRY AND JAPAN

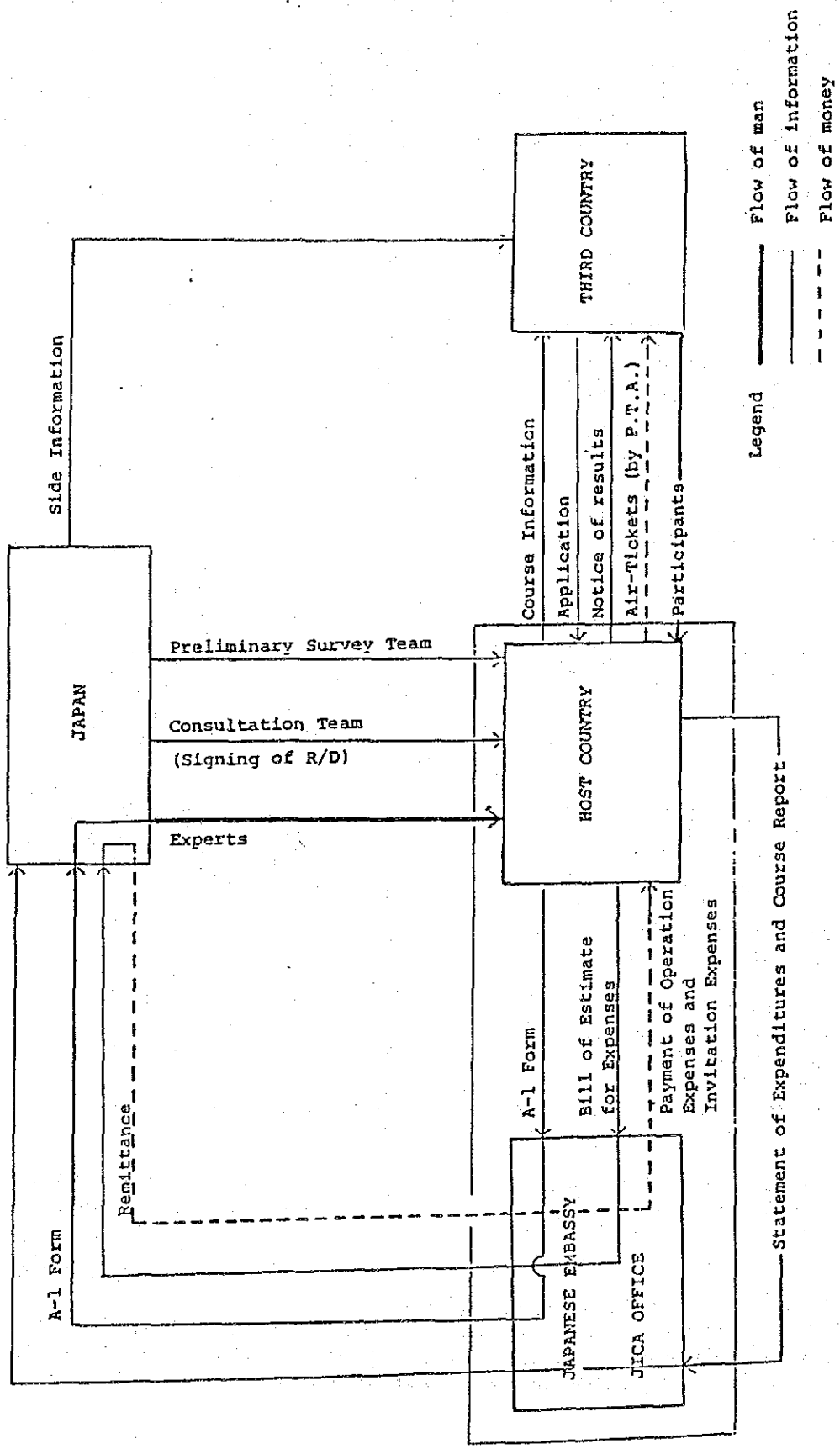
At the initiative of the host country, the greater part in organizing the course must be played by the host country. And Japan could provide technical and financial assistance which is deemed necessary for the host country to conduct the training course smoothly and effectively. Under the present scheme of JICA's TCTP the host country is supposed to assume the following responsibilities, and Japan has its readiness to bear the following burdens at the request of the host country.

HOST COUNTRY	JAPAN
<ul style="list-style-type: none"> <li>a. Provision with training facilities and equipment</li> <li>b. Formulation of curriculum</li> <li>c. Assignment of lectures, instructors and a coordinator</li> <li>d. Drafting and distribution of course information</li> <li>e. Preparation for textbooks and other training aids</li> <li>f. Screening of application and notification of the results</li> <li>g. Arrangement for overseas travel and accommodations of participants</li> <li>h. Operation and administration of the course</li> <li>i. Submission of a statement of expenditures and a course report</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>a. Advising with regard to b.d.e. f.h. in the left column</li> <li>b. Dispatch of expert(s) for advice and guidance</li> <li>c. Preparation for textbooks and other training aids which are not available in the host country</li> <li>d. Payment of invitation expenses (i.e. international economy class flight fare, accomodation, per-diem and medical insurance premium)</li> <li>e. Payment of operational expenses (i.e. honoraria, transportation secretarial services, and material procurement)</li> </ul>

2) PROCEDURE AND FLOW OF IMPLEMENTATION

The Procedure required to initiate a training course under JICA's TCTP scheme and its flow are illustrated in the following chart.

CHART



5. Tentative framework of each course

1) Framework of the seminar

(1) Title

ASEAN Seminar on Poultry Diseases and Their Control.

(2) Objective

To recognized the various aspects of poultry diseases situation (diagnosis, control, etc.) in ASEAN countries and to increase technical know-how on disease prevention and control, and consequently to contribute to upgrading the animal health situation in the ASEAN region.

(3) Duration

Approximately fourteen (14) days.

(4) Number of participants

Asean countries: about 10 (except the host country of Malaysia)  
Local: about 15  
Total: about 25

(5) Qualification of applicants

Applicants are to be official veterinarians or scientists in charge of animal health administrative services with a certain period of experience (depending on the nature of the seminar) in the animal health field.

(6) Tentative schedule and topics

i) Tentative schedule of the Seminar is to be as follows:

Day 1: Arrival in Ipoh  
Day 2: Opening ceremony and orientation  
Day 3: Presentation of country reports  
About 3 days: Special topic presentation and discussions  
About 3 days: Field trip  
Last 3 days: Evaluation of the seminar, closing ceremony and departure from Ipoh.

ii) Examples of the topics for the comprehensive report and discussion are to be as follows:

- a. Epidemiology of poultry disease including veterinary statistics
- b. Control and preventive programme of poultry diseases
- c. Recently developed diagnostic techniques (ELISA test, monoclonal antibody techniques, etc.)
- d. Veterinary economics
- e. Research project planning
- f. Other topics

2) Framework of the Course on basic diagnostic techniques

(1) Title

ASEAN Course on Basic Diagnostic Techniques of Poultry Diseases.

(2) Objective

To improve the capability in basic diagnostic techniques of poultry diseases.

(3) Duration

Up to three (3) months.

(4) Number of participants

ASEAN countries: about 5 (except the host country of Malaysia)

Local: about 2

Total: about 7

(5) Qualification of applicants

Applicants are to be official veterinarians, scientist or senior technical officers involved in laboratory diagnostic services.

(6) Tentative schedule

Tentative schedule of the Course is to be as follows:

First 20 days: Arrival in Ipoh, opening ceremony, orientation, basic handling technique of laboratory equipment, bleeding technique, macro-pathology, sampling technique and submission of samples

About 20 days: Lectures and practices on basic diagnostic techniques of major bacterial diseases

About 20 days: Lectures and practices on basic diagnostic techniques of major viral diseases

About 15 days: Lectures and practices on basic diagnostic techniques of major parasitic diseases

Last 15 days: Field trip, evaluation of the course, closing ceremony and departure from Ipoh

3) Framework of the Course on specialized diagnostic techniques

(1) Title

ASEAN Course on Specialized Diagnostic and Research Techniques on Poultry Diseases.

(2) Objective

To improve the capability in specialized diagnostic and research techniques on poultry diseases.

(3) Duration

Approximately fourteen (14) days.

(4) Number of participants

ASEAN countries: About 5 (except the host country of Malaysia)  
Local: About 2  
Total: About 7

(5) Qualification of applicants

Applicants are to be official veterinarians, scientists or senior technical officers involved in laboratory diagnostic services with a certain period and field of experience depending on the nature of the course.

(6) Tentative schedule and topics

i) Tentative schedule of the Course is to be as follows:

Days 1: Arrival in Ipoh  
Day 2: Opening ceremony and orientation  
Above 7 days: Lectures and practices on a specialized topic  
Last 2 to 3 days: Field trip, evaluation of the course and departure from Ipoh

ii) The examples of specialized topics of the Course are to be as follows:

- a. Pathological techniques (Pathology and histopathology of viral, bacterial and parasitic diseases, etc.)
- b. Virological techniques (Virus isolation techniques, Identification of isolated viruses)
- c. Bacteriological techniques (Cultural techniques, Diagnosis of mycoplasma, Identification of bacteria, etc.)
- d. Serological techniques (FA, HI, AGID, SN, CF, AGG, ELISA, etc.)
- e. Parasitological techniques (Blood and fecal examination of parasitic diseases etc.)
- f. Specific technique related to vaccine production (freeze-dry techniques, oil adjuvant techniques, etc.)
- g. Other topics

V 1. Facilities For Training

Room	Number	Remarks
1. Lecture room	1	(For 25 participants)
2. Training room	1	(For 10 Participants) gas, electricity, Laboratory tables
3. Storage	1	
4. Administration room	1	(For 2 to 3 clerks) includes printing room
5. Poultry Inspection room	1	Cages
6. Lounge	1	
7. Common Locker Room	1	

2. General Equipment and Apparatus For Training

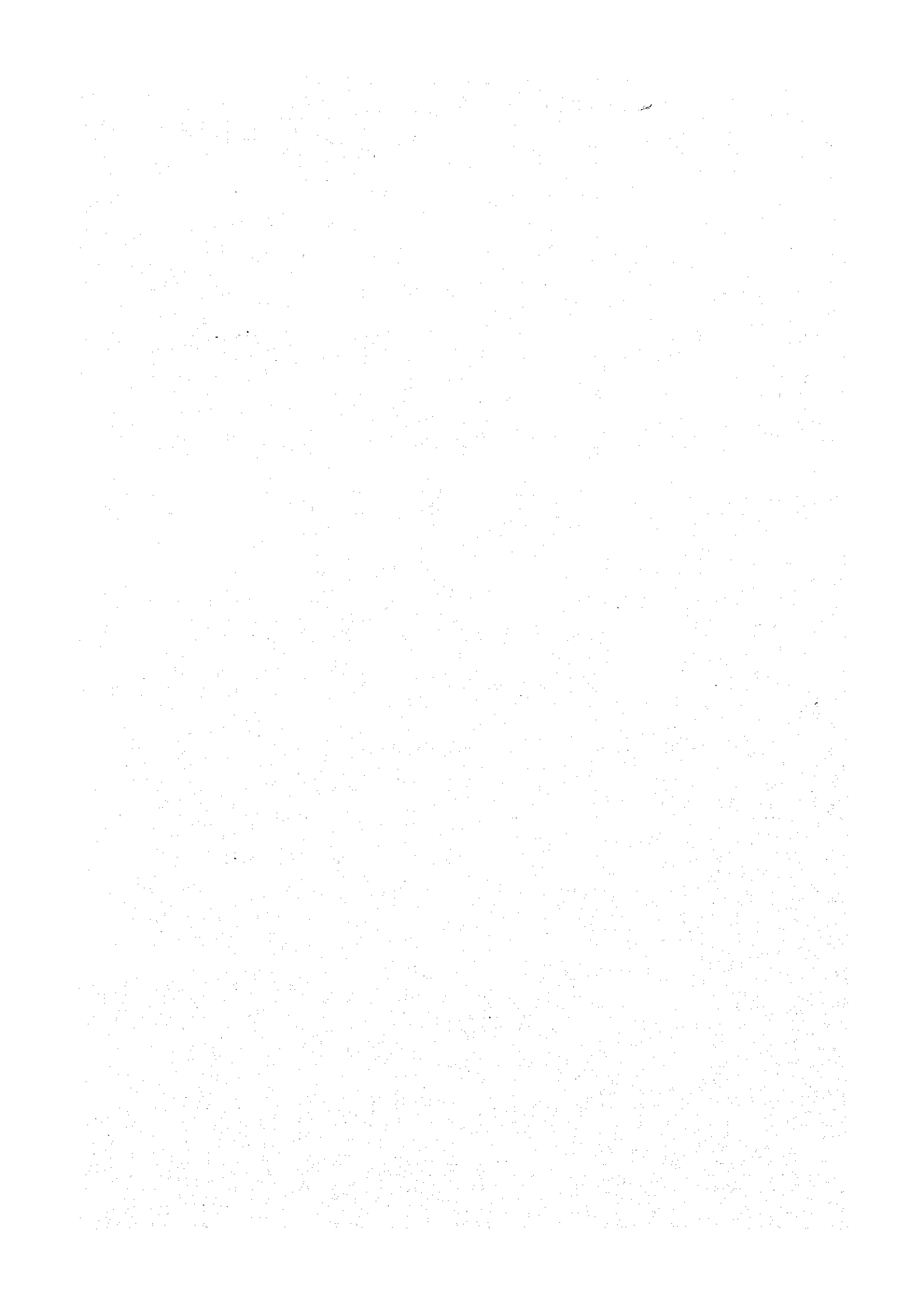
Item	Unit	Remarks
1. Microscope	10	
2. Centrifuge (Low Speed)	4	
3. Autoclave	1	
4. Magnetic Stirrer	6	
5. Autopsy Table		For 10 participants
6. Incubator (37°C)	2	
7. Refrigerator	1	
8. Egg Incubator	1	
9. Constant Temperature Water Bath	1	
10. Carbonic Acid Gas Incubator	1	
11. Post-mortem Dissection Instrument set	5	
12. Audiovisual Education Aid	1	
13. Microprojector	1	
14. Discussion Microscope	1	(Installed in the Pathology Research Section)

3. Facilities For Accommodation

Item	Number	Remarks
International Hostel	1	For 25 participants
Lecturer's Houses		For lecturers







JICA